２０２５仙台市下水道フェア
第24回川柳コンクール・
第３回デザインマンホールコンテスト
入賞作品集

主催　仙台市下水道フェア実行委員会

2025 仙台市下水道フェア

第 24 回川柳コンクール・第 3 回デザインマンホールコンテスト

ご　あ　い　さ　つ

今年度は、川柳コンクールは674作品、デザインマンホールコンテストは330作品の応募をいただきました。素晴らしい作品を数多くお寄せいただき、心より感謝申し上げます。

仙台市下水道フェア実行委員会では、みなさまに下水道への関心を深めていただき、身近な水環境について考えるきっかけにしていただきたいという思いから、作品を募集いたしました。

下水道は、汚れた水をきれいにして川や海に帰す役割を担うとともに、浸水被害の軽減にも欠かせない大切な社会基盤です。

仙台市内には約 14 万個のマンホールがあり、下水道管の総延長は約 5,000km、北海道と沖縄を往復できるほどの長さがございます。

今回のコンクールやコンテストをきっかけに、下水道により一層の関心を持っていただければ幸いです。

令和７年10月吉日

仙台市下水道フェア実行委員会

会長　仙台市建設局長　佐藤　秀樹

2025仙台市下水道フェア第24回川柳コンクール

応募者数

	人　　数	作　品　数
小　　学　　生	47校　203名	310句
中　　学　　生	13校　120名	191句
小　　計	60校　323名	501句
一　　般	94名	173句
合　　計	417名	674句

選者紹介

雫石 隆子 さん　（宮城県川柳連盟理事長）

鈴木 俊光 さん　（アナウンサー・パーソナリティ）

佐藤 秀樹　　（仙台市建設局長）

＜仙台市下水道フェア実行委員会構成団体＞
・全環衛生事業協同組合
・公益社団法人　全国上下水道コンサルタント協会東北支部
・全国ヒューム管協会東北支部
・一般社団法人　仙台建設業協会
・仙台リバーズネット・梅田川
・公益社団法人　日本下水道管路管理業協会東北支部　宮城県部会
・宮城県管工業協同組合
・公益社団法人　宮城県生活環境事業協会
・仙台市建設局

【講評】 選者　雫石　隆子

（宮城県川柳連盟理事長）

　猛暑から酷暑と言われるほどの暑い夏、二十四回を重ねた川柳コンクールの募集がありました。

　学生さんたちは夏休み中の作句だったと思いますが、いつにも況して完成度の高い作品が集まりました。

　本音の文芸と言われる川柳、暑さと奮闘しながら発見のある作品、また感性豊かな表現もありました。

　どれも「水」への賛歌です。日本中が線状降水帯や台風に見舞われ、水の大切さへの気づきですが、未来へのつなぎを作品に込めています。

　「SDGs」の考え方が、小中学生に浸透している事が解り教育の現場にも感謝です！

　仙台には伊達政宗由来の四ツ谷用水があります。一部は今も機能しており、郷土の誇りです。

　目には見えない下水道への感謝は、これからも子らの視野を広げる習慣になり、思考を深くしてくれることと思います。

　沢山の秀句との出あいをありがとうございました。

特選

節水は
未来へつなぐ
あいことば

宮城県仙台二華中学校二年　髙際　智之進

【評】
産湯から末期まで水に始まり、水で終わる人間の一生。人類の未来が豊かであるよう、美しい水を未来につなぐ使命を私たちは持っている。

ジュニア賞

未来へと
つなぐ命水（名水）
広瀬川

仙台市立立町小学校六年　佐藤　由惟

【評】
四ツ谷用水が開かれて四百年。未だにその恩恵は仙台を潤す。この先、未来も広瀬川を守り、美しいふるさとを次代に繋ぎたいと思う。

秀逸

青き星
まもる礎
めぐる水

青葉区　小澤　孝行

【評】
「地球は青かった」と宇宙から見た地球の感想を述べたのは宇宙飛行士一号のガガーリン。温暖化による異常気象が地上を痛めつけている。地球を守るため、第一に「水」資源を大切にしたい。

秀逸

水飲み場
部活終わりは
オアシス化

宮城県仙台二華中学校二年　木村　匠汰

【評】
下五は句の要点、と云われています。この作品の「オアシス化」に感銘しました。どれほど頑張って練習をしたのかを想像できます。水を飲んで終わる部活動の賑やかさ、楽しさは下五の「オアシス化」に言わせています。

入選

生き物は
水をたよって
生きている

仙台市立上杉山通小学校二年　市川　颯己

【評】
この作品も中七の措辞が素晴らしい！水を頼って、と二年生で描けることに驚きです。人間や動物だけでなく、植物も水がなければ命を得ることはありません。水は生きものに不可欠です。

入選

熱帯夜
朝一番の
お水かな

仙台市立燕沢小学校四年　吉田　樹生

【評】
まあどんなに美味しかったことでしょう。「朝一番」と中七の数詞が作品を引き締めました。猛暑から酷暑とまで言われた今夏が偲ばれる作品です。

入選

全身で
杜が感じる
水の呼吸

太白区　北田　掌子

【評】
劇画「鬼滅の刃」から触発された作品でしょうか？感覚的な一句です。下水道を人間の血管に喩えて、暮らしになくてはならぬものとして感謝を表しています。

入選

とう明な
水は資源だ
大切に

仙台市立燕沢小学校四年　伊藤　澄人

【評】
私たちの活動を支える水は、たしかに貴重な資源である。作者は「とう明」とこだわっている。海外を旅行すると、日本の水道水の安心安全にあらためて感謝を感じます。

入選

スランバー
眠る街にも
流れあり

宮城野区　佐藤　祐治

【評】
伊坂幸太郎氏の「ゴールデンスランバー」の舞台になった仙台。作者は地下水道にスランバーの語感、意味を重ねて、地下で市民の暮らしを支える下水道への感謝を込めた作品です。

入選

すくっては
手からこぼれる
水の月

聖ウルスラ学院英智小・中学校　七年　岩根　美來

【評】
感性の豊かな作品です。水に映った月を手で掬う、そうしないではいられない程の美しい夜なのでしょう。月へのロマンも薄れてた昨今とは言え、宇宙への憧れは万人のものでしょう。

入選

下水道

水とくらしを

つないでる

仙台市立八本松小学校四年　大沼　奏介

【評】
毎日、水に触れて下水道を意識することは少ない。しかし、下水道がなければ汚水の行き場はどうなるのか？私たちの暮らしを支えている下水道への感謝を四年生の作者に教えられました。

入選

災害多発

断水で知る

ありがたさ

宮城野区　矢野　カ

【評】
日本各地が線状降水帯で浸水したり、台風や竜巻被害もありました。あの十四年前の断水では、梅田川へ水汲みに行きました。水道水の有難さを忘れないようにしたいですね。

入選

節水で
地球にやさしい
恩返し

宮城県仙台二華中学校二年　堀江　千咲

【評】
有難いことに仙台に住んで断水の経験は、東日本大震災の時だけです。今年の猛暑にも水不足はありません。水資源を大切にすることは地球にやさしい！日々の節水が水の星への恩返しです。

入選

米と水
あるだけでいい
ありがたい

若林区　岡部　祐子

【評】
今年は米不足も大きな社会問題でした。日本人の主食であるお米の不足は社会不安をもたらし、農政批判も叫ばれて農水大臣の更迭に発展しました。米の栽培に成長に必須のアイテムは水です。作者は「生きる」ためには米と水だ、と究極の気づきを作品にしました。

入選

下水道

暮らし支える

黒子なり

青葉区　佐々木　愛

【評】
下水管の腐蝕で道路陥没事故のニュースがありました。その一帯の住民の暮らしに大きな影響を及ぼしました。この句の面白さは、「黒子」です。古来から演劇で演技者の装束を直したりする役ですが、裏で操る人、表に出ずに事を処理する人に喩えて見事です。

入選

水不足

あふれる水に

一喜一憂

宮城教育大学附属中学校一年　山田　知佳

【評】
今年の夏を象徴的に表した作品です。水不足は県内のあるダムの貯水率はゼロ%!!と言う報道にはびっくりしました。まさに下五の「一喜一憂」の熟語の選びが素晴らしい。

【講評】 選者　鈴木　俊光

（アナウンサー・パーソナリティ　元東北放送）

今年ほど水を、麦茶を、アイスを飲んだり食べたりした夏はなかったように思います。それにしても暑い、いや熱かった。去年は地球は沸騰していると言われましたが、今年は何と言えばいいのでしょうね。

気温もさることながら、雨の降り方も台風の発生過程も異常でした。線状降水帯のニュースの隣でダムの渇水のニュースだなんて。また三陸沿岸で伊勢エビが出荷できるほどの水揚げとなったというニュースの隣で鮭（サケ）が姿を消したというニュース。あれもこれも全て地球温暖化・海水温の上昇が元だといいます。

そんな毎日の中で取り組んでいただいた、暮らしと水の川柳には674句の応募がありました。

今年も何度も何度も読み返し各賞を決めました。

特選

打ち水で
ジュッと鳴かせる
アスファルト

仙台市立八木山中学校三年　田中　幸一

【評】
猛暑の夏をこの一句で表現しました。滑り台やブランコも使用禁止、プールサイドに座っていてお尻に火傷（やけど）ということもありました。「ジュッ」が暑さへの緊張感を漂わせています。

ジュニア賞

水パワー
トマト・ヒマワリ
生きかえる

仙台市立蒲町小学校三年　佐藤　奏汰

【評】
水不足で元気のない野菜や草花もお水をあげるとたちまち元気になります。水の力ってすごいですよね。たまに肥料もあげますが、まさに「水パワー」小学校三年生の素直な目線を感じます。

秀逸

かき氷

夏のひととき

溶けてゆく

宮城県仙台二華中学校二年　菅原　綾

【評】
暑かった夏のひとコマ。たちまち溶けたかき氷。「暑い暑い」と言っているうちに一日一日が過ぎ、夏休みも溶けるように終わってしまいましたか。

秀逸

長話

水で薄めて

聞き流す

宮城県仙台向山高等学校一年　齋藤　百花

【評】
作者曰く、この水は学校に持参する水筒の水で、学校内のことを詠んだといいます。となると長話の主は・・・。想像はつきました。実に大人の感覚の句。

入選

雨こいし
草木うつむく
夏の庭

青葉区　佐々木　愛

【評】
宮城県は特別雨の少ない夏でした。一部のダムはカラカラに、水田もひび割れしていました。稲の生育を心配しましたが、農家の皆さんの頑張りで何とかおいしいお米になったようです。庭木への水やりも大変でした。

入選

夜の海
地球のいびき
聞こえるよ

仙台市立長町小学校三年　刈谷　航大

【評】
きれいに浄化され海に戻ってきた生活用水。また雲になり雨になるまでのひと休みの時間、打ち寄せる波音はまさにいびき、ぐっすり寝ているようです。

入選

雪道に
萩が咲いたよ
マンホール

仙台市立長町小学校五年　髙橋　成実

【評】
今デザインマンホールが人気です。仙台市の花「萩」のマンホールは地味ながら深い味わいがあります。特に雪道ではくぼみに雪が入ってまるで版画のよう。まもなく降る（であろう）雪の日に確かめてみてください。

入選

蛇口まで
まちの血管
水運ぶ

宮城県仙台二華中学校三年　鏡谷　芽生

【評】
上下水道、雨水管は動脈、静脈だとすれば、家に入る水道管や散水ホースは確かに血管であり毛細血管ですね。血液が洩れていれば貧血に、蛇口はしっかり締めないと。

入選

カラコロと
水筒が鳴る
グラウンド

宮城県仙台二華中学校二年　大沼　風治朗

【評】
氷を沢山入れた水筒持っての部活。氷をいれないとすぐお湯になってしまうほどでした。給水タイムはあちらこちらからカラコロと涼しげな音が、氷が全部溶ける前に蛇口で補給の繰り返しでしたね。

入選

雨の音
ねこと眺める
タチアオイ

仙台育英学園高等学校一年　宮田　ちぐさ

【評】
晴天続きの中、雨は歓迎するものの、そろそろ止んでほしいなと外を眺めるひとりと一匹。そこにすらりと垂直にのびるタチアオイが涼しげです。

入選

待ちわびる
ひとしずくにも
芽のちから

多賀城市　鈴木　結依

【評】
今年の植物たち、水を求めてどこまで根を延ばしたのでしょう。一滴ひとしずくを待っていた芽もあったに違いありません。後は根を張りきっと生き延びたことと思います。

入選

シャワー浴び
心の曇りも
海へ旅

泉区　櫻井　慎也

【評】
確かにシャワーの水は、汚水として下水道から浄化センターできれいな水となり、川や海へ放流されます。日頃の疲れも心の曇りも傷も全て浄化してくれそうですね。「あび」と「たび」の音の遊びも巧みです。

入選

水を止め
蛇口に一言
ありがとう

若林区　白井　賞

【評】
水の有り難さを何度も感じた夏でした。心から思いました。ありがとうと。無駄にしまいと。そもそも水道水がそのまま飲める国はネットによりますと日本の他８カ国しかないそうですよ。

入選

皿洗い
夏だけちょっと
好きになる

泉区　久保　奏子

【評】
台所仕事は全てが大変ですが、特に夏場の揚げ物はお断り、スーパーのお惣菜でという方多いようです。でも水を流しながらのお皿洗い、これは気持ちよさそう。ジャーっという音も涼を呼びます。

入選

雨上がり

仙台の街

ピッカピカ

仙台市立七北田小学校六年　久保　凛夏

【評】
チリやほこりを洗い流した雨上がりは空気も澄んで、街は生き返った感じ。まして新緑の季節の仙台は格別、街全体がペンキ塗りたて。作者は仙台に越してきて高台のマンションから見たときの印象を詠みました。

入選

雑草も

抜くに抜けない

水不足

若林区　木村　まゆみ

【評】
雑草には手を焼きました。太陽を味方に元気のいいこと伸びること、取っても抜いても追いつきません。せめて雨上がりの抜き易い時にと思っても雨がない。雑草との戦いに敗れた私です。

【講評】 選者　佐藤　秀樹

（仙台市建設局長）

2025仙台市下水道フェア第24回川柳コンクールに、たくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございます。今年も、「くらしと水」、「下水道」をテーマとして、幅広い年代の方々から思いのこもった素晴らしい作品をご応募いただきました。

近年は記録的な暑さや大雨・台風など、私たちの暮らしを取り巻く水の課題が一層身近に感じられるようになっています。その中で、水の恵みや防災への願いを詠んだ句、日常の中で下水道が果たしている役割に気づかされる句など、多様な視点で表現いただきました。今年は雨が少なく、水不足について詠んだ句も多くありました。また、マンホールのデザインを楽しんでいただいていることが伝わってくる句や、見えない地下の下水道管を想像していただいた句もあり、大変嬉しく思います。

寄せられた句の一つ一つには、環境を大切に思う気持ちや、日常を見つめる豊かな感性が息づいており、読むたびに新たな発見や共感を覚えました。本コンクールが、水や下水道の大切さを考えるきっかけとなり、また、川柳を通じて日々の暮らしに潤いを添えるものとなれば幸いです。

来年も多くの方々のご応募を心よりお待ちしております。

特選

雨よふれ からっぽダムに プレゼント

仙台市立長町小学校三年　刈谷　航大

【評】
今年の夏は、猛暑もさることながら、ダムの水がほとんど無くなったとのニュースがありました。のどがカラカラのダムに水を贈りたいとの優しい思いが伝わる一句と感じました。

ジュニア賞

マンホール ふた見比べて 美術館

宮城教育大学附属小学校五年　山田　史佳

【評】
マンホールのデザインは、今や各地で工夫を凝らしていて、目を見張るものばかりです。さながら美術館で展示されている作品のようですね。これからもデザインマンホールを楽しんで頂けたら嬉しく思います。

秀逸

米不足
追い打ちかける
水不足

宮城県仙台二華中学校二年　木戸　心彩

【評】
お米もお水も、私たちの生活に欠かせないものであり、大切であることを実感させられたこの夏でした。水のない田んぼを見て、今年のお米は大丈夫かなと思う気持ちが伝わる一句でした。

秀逸

水学び
未来へつなぐ
子どもたち

太白区　加藤　宏樹

【評】
水は、生活に無くてはならないもので、その大切さを学ぶ子どもたち。学んで考えたことをしっかりとつなげていってほしいとの願いが込められている一句と感じました。

入選

排水溝
落ち葉を掃いて
危機管理

青葉区　木村　鏡子

【評】
排水溝のこまめな清掃も、排水を溢れさせないように私たちにできる大切なことの一つです。未然に防ぐために行っていただいていることに感謝いたします。

入選

お水さん
いってらっしゃい
またきてね

仙台市立連坊小路小学校二年　関根　麻友

【評】
使った水は、下水道などを巡って、また使える水となって戻ってきます。水が循環して利用されている様子をとても素直な言葉で表現された句と感じました。

入選

母親と

湖のぞき

そっくりだ

仙台市立燕沢小学校四年　小野寺　よりか

【評】
思わず微笑んでしまいました。湖面に映った親子の顔。普段はあまり並んで鏡をみることはなかったのでしょう。仲の良い親子の情景が浮かんでくる一句と感じました。

入選

夏の陽に

水筒並ぶ

プレイボール

仙台市立南吉成中学校一年　岩田　零

【評】
暑い夏の日の試合、水分補給のために用意した水筒が並んでいます。準備万端で、いよいよこれから試合が始まる瞬間を切り取った、緊張感が伝わってくる一句と感じました。

入選

雨上がり
地下帝国行き
荒れる側溝

宮城県仙台二華中学校二年　佐々木　百合子

【評】
大雨の後に、雨水が音をたてて、側溝へどんどん吸い込まれていく様子を、地下帝国行きとの表現されていたところが、とてもユニークで面白いと感じた一句でした。

入選

生活を
影で支える
地下の川

仙台市立将監中学校一年　福島　羽琉

【評】
表には見えない下水道管ですが、生活の中にあって、大きな働きをしています。それを地下の川と例え、大切さへの思いが込められている一句と感じました。

入選

下水道

油流さず

きれいにね

仙台市立燕沢小学校四年　伊藤　澄人

【評】
多くの油を排水口へ流すと、下水道が詰まることがあります。安心して下水道を使っていただくためにも、気を付けたいことへの思いを、わかりやすく読んだ一句と感じました。

入選

祖父の手が

つなげた水と

くらしのわ

宮城県仙台二華中学校二年　大友　胡雪

【評】
おじいさまが仕事でつなげた水が、人々の暮らしもつなげていることに、深い感銘を受けたのでしょう。おじいさまの仕事に対する尊敬の念を感じた一句でした。

入選

雨がない
ぼくのあせも
もったいない

仙台市立枡江小学校四年　鈴鴨　怜生

【評】
水不足が心配されていましたが、自分の汗の一滴も、無駄にできないと思えたようですね。あせる気持ちも重なったのではないでしょうか。とても納得のいく一句でした。

入選

打ち水で
自然のクーラー
スイッチオン

泉区　久保　奏子

【評】
暑い夏には、もはやクーラーは必需品となりつつありますが、打ち水という水の力を生かした方法で、涼を呼ぶ工夫をされています。環境にも配慮されていますね。

入選

水不足
みんなで変えよう
温だん化

仙台市立柳生小学校四年　坂口　こころ

【評】
地球温暖化の影響で、気候変動により、水資源が不安定になることも予想されています。困ることが起きないように、地球温暖化対策についてみんなで考えていく必要がありますね。

入選

よーいドン!!
じゃ口に直行
ぼくの勝ち

仙台市立折立小学校五年　今井　駿之介

【評】
暑い日には、水を欲しますね。いち早く水にありつきたいために、飛び競争した情景が浮かんできます。躍動感に加え達成感もあり、テンポの良い一句と感じました。

実行委員会特別賞

出来るなら
集中豪雨
ダムの上

富谷市　青木　伶奈

実行委員会特別賞

地下満杯
「もう飲めないよ」
マンホール

仙台市立長町小学校六年　刈谷　芽依

2025 仙台市下水道フェア
第 3 回デザインマンホールコンテスト

最優秀賞

仙台市立仙台工業高等学校 2 年

李　預民　さん

デザイン説明

仙台の祭りや伝統をピックアップして、一つにまとめて描くことができました。
イラスト同士のつながりを意識し、仙台の良さを伝えられるとうれしいです。

ジュニア賞(小学校低学年)
仙台市立大野田小学校２年

松本　萌花　さん

デザイン説明
　下水処理されてきれいになった海の水で楽しく泳ぐ生き物たち

ジュニア賞(小学校高学年)
仙台市立国見小学校５年

佐藤　杏唯子　さん

デザイン説明
　きれいな水のおかげで仙台の春夏秋冬の行事が守られているのを表現しました。

ジュニア賞(中学生)
仙台市立第一中学校２年

星澤　美冬　さん

デザイン説明
　杜の都れんが下水洞窟をモデルに、私が、下水道の中で踊っているかんたくんとすずめに出会った場面を想像して描きました。下水道が自分たちの「くらし」につながっているイメージで、中央の森をリアルにしました。また、奥が明るくて手前が暗い光の表現を工夫しました。

入選

仙台市立八幡小学校３年
小野　琴峯　さん

仙台市立川前小学校２年
橋本　葵　さん

仙台市立柳生小学校３年
佐藤　しずく　さん

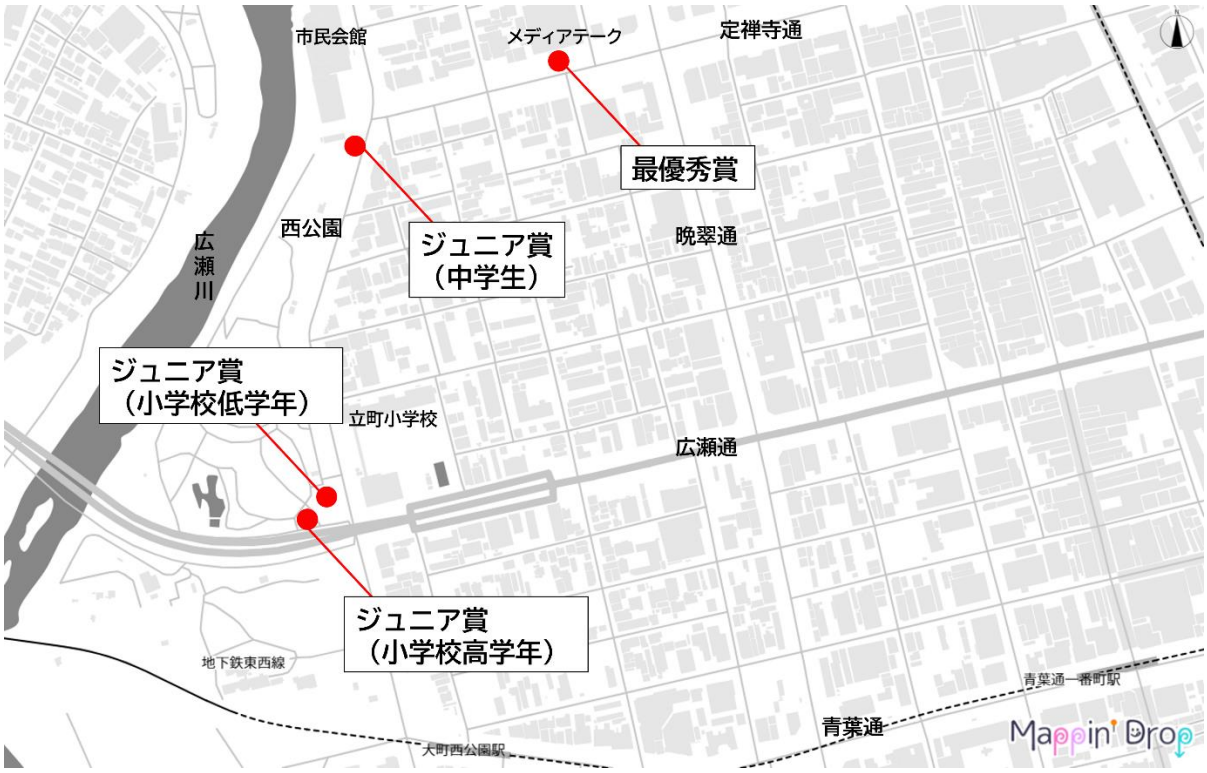
仙台市立五橋中学校２年
佐藤　睦　さん

仙台市立中田中学校３年
山嵜　朱莉　さん

2025 仙台市下水道フェア
第 3 回デザインマンホールコンテスト
応募者数

	人　　数	作　品　数
小　　学　　生	65 校　235 名	260 枚
中　　学　　生	12 校　23 名	24 枚
小　　計	77 校　258 名	284 枚
一　　般	40 名	46 枚
合　　計	298 名	330 枚

入賞作品設置場所



※　令和8年1月から約1年間設置予定

仙台市下水道
マスコットキャラクター
かんたくん

@KANTAKUN_GESUIDOU